

首都高速道路公団 川崎縦貫線大師ジャンクション（MMST工法）の現場見学会 会員サービスグループ幹事 谷 和夫（横浜国立大学）

平成 16 年 12 月 11 日に、標記の見学会が関東支部会員サービスの主催で行われた。参加者は 24 名で、2 班に分かれて 2 時間弱で現場を回った。

現在、首都高速道路公団では、川崎浮島ジャンクション（高速湾岸線及び東京湾アクアライン）から大師ジャンクション（高速神奈川 1 号横羽線）を経て富士見出入口（国道 15 号）までを結ぶ川崎縦貫線の第 1 期工事（延長 7.9km）を進めている。この建設工事は、東京湾アクアラインの延長上に、高速湾岸線や高速神奈川 1 号横羽線などと直交する形で首都圏の環状道路網の一部を形成しようとするものである。

見学地点は、地下を走る高速川崎縦貫線と産業道路上の高架である高速神奈川 1 号線横羽線が交差する大師ジャンクション部と、殿町と大師の間 540m 区間で MMST 工法を世界で初めて適用したトンネル部である。大師ジャンクションでは、地下と地上をつなぐループ道路部において、液状化対策として矢板により周辺の液状化地盤の回り込みを防ぐ工法などを見学した。また、MMST 工法によるシールド・トンネルでは、外殻躯体の構築の各段階（シールド掘削、接合部の掘削とコンクリート打接）を見学した。この MMST（マルチ・マイクロ・シールド・トンネル）工法とは、外殻と呼ばれる外側の壁を、複数の小型シールドマシンで掘削し、これらを相互につなぎ合わせた後に内部の土を掘削しトンネルをつくる工法である。参加者は、掘削断面の大きさと MMST 工法の施工技術の高さに驚嘆していたようであった。

最後になりましたが、貴重な見学の機会を与えていただき、懇切丁寧にご説明いただいた首都高速道路公団の神奈川建設局の関係者御一同に深く御礼を申し上げます。



見学会の状況

